

平成29年度

「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価」報告書

平成31年2月

隠岐の島町教育委員会

1. 点検・評価の趣旨等について

(1) 点検・評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項に基き、教育委員会の権限に属する平成29年度の事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表するところです。

(2) 点検・評価の対象

今回の点検・評価は、平成29年度の教育委員会の活動状況及び教育委員会の主要な事業に係るものです。

(3) 点検・評価の方法

教育委員会の活動状況及び教育行政に係る主要な事業について、所管する課及び公民館等が点検・評価を行うとともに、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、隠岐の島町教育委員会事務評価委員会の評価を踏まえ、総合的に点検・評価した報告書を作成しました。

○ 隠岐の島町教育委員会事務評価委員会

委員長 角脇 一夫

副委員長 赤山 克司

委員 中川 恵子

委員 芳滝 智文

委員 小川 静香

事務評価委員会の開催状況

平成31年 1月30日

平成31年 2月 5日

2. 教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会の会議の開催状況

H29.4.24 定例会

隠岐の島町社会教育行政推進体制の見直し計画について

隠岐の島町図書館運営委員会委員の解嘱について

隠岐の島町図書館運営委員会委員の委嘱について

H29.5.30 定例会

工事請負変更契約の締結について〔屋内温水プール大規模改修工事〕

町職員の人事について

平成29年度隠岐の島町一般会計補正予算（第1号）について

隠岐の島町スクールソーシャルワーカー設置要綱の制定について

明治150年関連事業活動費補助金交付要綱の制定について

隠岐の島町学校給食センター運営委員会委員の解嘱について

隠岐の島町学校給食センター運営委員会委員の委嘱について

平成29年度教育行政の方針について

H29.6.20 定例会

物品購入契約の締結について〔都万町民運動場管理用機器購入〕

H29.7.24 定例会

- 隠岐の島町教育委員会事務評価委員会委員の委嘱について
隠岐の島町海外学校生徒招致交流事業補助金交付要綱の制定について
隠岐の島町県立高等学校魅力化事業補助金交付要綱の一部改正について
- H29. 8. 31 定例会
平成29年度隠岐の島町一般会計補正予算（第3号）について
- H29. 9. 28 定例会
（審議事項なし）
- H29. 10. 24 定例会
隠岐の島町生涯学習推進計画の経過検証報告書について
- H29. 11. 29 定例会
工事請負契約の締結について〔隠岐の島町図書館木質ペレットボイラー導入工事〕
隠岐の島町立学校の学校歯科医の解嘱について
平成29年度隠岐の島町一般会計補正予算（第5号）について
- H29. 12. 6 臨時会
教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書について
- H29. 12. 20 定例会
物品購入契約の締結について〔教職員用パソコン購入〕
社会教育振興に関する提言について
工事請負契約の締結について〔西郷小学校グラウンド整備工事〕
工事請負契約の締結について〔磯小学校グラウンド整備工事〕
- H30. 1. 19 定例会
隠岐の島町教育委員会教育長職務代理者の指名について
隠岐の島町教育委員会事務評価委員会委員の解嘱について
- H30. 2. 22 定例会
平成29年度隠岐の島町一般会計補正予算（第6号）について
平成30年度隠岐の島町一般会計当初予算について
隠岐の島町学校管理規則の一部改正について
隠岐の島町学校職員の服務規則の一部改正について
第2期隠岐の島町生涯スポーツ推進計画の策定計画について
隠岐の島町社会教育推進体制の見直しについて
- H30. 3. 26 定例会
平成30年度隠岐の島町一般会計当初予算について
隠岐の島町学校給食センター運営委員会委員の解嘱について
隠岐の島町学校給食センター運営委員会委員の委嘱について
隠岐の島町指定文化財の指定解除について
隠岐の島町教育委員会事務局の組織に関する規定の全部改正について
隠岐の島町文化財保護審議会条例の一部を改正する条例について
隠岐の島町スポーツ推進審議会条例の一部を改正する条例について
隠岐の島町立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の配置及び報酬支給基準に関する規則
の一部改正について
隠岐の島町複式教育推進事業実施要綱の制定について
隠岐の島町学校司書配置要綱の制定について
隠岐の島町高校魅力化コーディネーター配置要綱の制定について
隠岐の島町突き牛導入促進事業補助金交付要綱の制定について
隠岐の島町神馬導入促進事業補助金交付要綱の制定について

隠岐の島町歴史文化保存活用団体支援補助金交付要綱の制定について
文化・体育行政における首長部局との連携及び隠岐の島町社会教育推進体制の見直しについて
隠岐の島町生涯学習推進体制（組織）の確立について
隠岐の島町図書館長の承認について
隠岐の島町立学校の学校医、学校歯科医、学校薬剤師の委嘱について
隠岐の島町社会教育委員の委嘱について
隠岐の島町文化財保護審議会委員の委嘱について
隠岐の島町スポーツ推進審議会委員の委嘱について
隠岐の島町屋内温水プール管理運営委員会委員の委嘱について
隠岐の島町立隠岐の島町図書館運営委員会委員の委嘱について
隠岐の島町総合体育館管理運営委員会委員の委嘱について
隠岐の島町スポーツ推進委員の委嘱について
隠岐の島町公民館運営審議会委員の委嘱について
町職員の人事異動について

(2) 教育委員会の会議以外の活動状況

H29. 10. 24 磯小学校訪問

学校経営について意見交換、授業参観、給食試食

H30. 1. 19 研修会

教育委員会制度について

? 島根県市町村教育委員会連合会理事会、総会、研修会等

(3) 隠岐の島町総合教育会議

H29. 12. 20 町長と意見交

教育費予算と地方交付税について、高校魅力化事業について

3. 教育委員会の主要な事業の点検・評価について

所管する課及び公民館等が選定した次の教育委員会の主要な事業について、点検・評価を行いませんでした。

No	頁	事業名	予算科目	担当
1	5	学力向上対策事業	教育指導費	総務学校教育課
2	7	学校図書充実事業	教育指導費	総務学校教育課
3	9	英語指導事業	教育指導費	総務学校教育課
4	11	特別支援教育事	教育指導費	総務学校教育課
5	13	高校魅力化事業	教育指導費	総務学校教育課
6	15	教育振興事業（小学校）	教育振興費（小学校費）	総務学校教育課
7	17	有木小学校大規模改修事業 磯小学校グラウンド整備事業 西郷小学校グラウンド整備事業	学校施設費（小学校費）	総務学校教育課
8	18	教育振興事業（中学校）	教育振興費（中学校費）	総務学校教育課
9	20	青少年教育事業	社会教育総務費	生涯学習課
10	22	公民館管理運営事務	公民館費	中央公民館
11	23	公民館活動振興事業（1/4） -中央公民館-	公民館費	中央公民館
12	24	公民館活動振興事業（2/4） -布施公民館-	公民館費	布施公民館
13	25	公民館活動振興事業（3/4） -五箇公民館-	公民館費	五箇公民館
14	26	公民館活動振興事業（4/4） -都万公民館-	公民館費	都万公民館
15	27	図書館管理運営事業	社会教育施設費	生涯学習課
16	28	文化財保存継承事業	文化財保護費	生涯学習課
17	30	保健体育活動推進事業	保健体育総務費	生涯学習課
18	31	学校給食センター管理運営事業	学校給食費	学校給食センター

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	総務学校教育課	No.	1
予算科目	教育管理費	教育指導費	
事業名	学力向上対策事業		
決算（見込）額	4,329千円		
1 事業の内容			
<p>一人一人の子どもたちが、夢や希望を持ち、主体的にたくましく生きていくことができるよう、子どもたちに確かな学力を身につけさせるために、教員の指導力向上を図るとともに、児童生徒の学習に対する興味・関心を喚起し、学習意欲を高め、家庭学習の時間の増加など学習習慣の確立を図る。</p>			
2 成果及び状況			
<p>派遣指導主事負担金・指導主事会等出席旅費 2,142千円 町学力調査 967千円 県学力調査負担金 541千円 学習プリント配信システム活用用紙代 299千円 指導力向上セミナー 265千円 専門部会活動費 98千円 生活習慣の改善のためのチラシ作製費 17千円</p>			
3 前年の評価に対する取組及び達成度			
<p>子どもたちの学力も少しずつ向上しており、知識・技能の面では一定の成果が上がってきているが、思考・判断・表現力の向上については、更なる取り組みが必要である。</p> <p>専門部会については、ねらいや活動内容（授業づくり中心）を共通認識して取り組み、活発な活動ができた。</p> <p>指導力向上セミナーは、社会科研究会、ユニバーサルデザイン研修会を実施するなど教員のニーズに対応し、幅を広げることができた。</p> <p>家庭学習の習慣化やメディア接触への対応など、家庭教育についての取り組みでは、保護者に対して「家庭での取組」をPTA総会時に説明し協力を図っているが、十分な成果は得られていないため、今後も保護者と学校が連携して取り組んでいく。</p>			
4 事務評価委員会の評価			
<p>（1）評価の概要</p> <p>○学力調査後の国・県及び業者の分析が同じ傾向であれば、年間の学力の変動を確認できると考えるが、分析傾向が異なるのであれば、効果的な利用にはかなりの工夫が必要だと思われる。分析結果をどのように利用するかを検討され、調査の整理または継続の方針を出す必要あるのではないか。</p> <p>○学力調査をうけて、総花的に取り組むのではなく、たとえば記述問題の無回答を少なくするなど焦点を絞った取組することで、町全体の取組となるのではないか。改善の取組の明示が望まれる。</p> <p>○授業改善と評価技能の向上は、表裏一体である。中学校間で定期テストを持ち寄った検討会や、優良な入試問題を持ち寄る勉強会などにより作問力が向上すれば、教師の指導力向上や授業改善つなると考える。</p> <p>○町独自の学力調査は、毎年約100万円計上しているが、国や県も実施しているので、不要ではないか。</p> <p>町の小中学校の子どもたちの学力の傾向や授業の改善方策については、特に県の学力調査で明らかになるのではないか。</p> <p>○子どもの家庭学習や、メディアへの対応は保護者への啓発とともに、学校教育における子どもへの指導の強化が必要である。</p> <p>○学力向上に向けた改善の余地があるとすれば、何を（どこを）どのように改善していくか具体的な方策を一つでも実現して欲しい。</p> <p>○様々な家庭環境で育つ実態や状況をしっかりと把握しながら、子どもの向かって行く方向性（課題解決）を明確にし、保護者と学校が共有する（信頼関係）重要性を感じます。</p> <p>○ねらい“夢や希望を持ち、主体的にたくましく生きていく”姿を、学校は一人一人の子どもに描いているのであろうか。子どもが主体的に生き抜く力を育む為、教員自らが、夢や希望を語れる学校であって欲しい。</p> <p>○家庭教育への取り組みは難しいと思うが、時間と努力を期待したい。特に学校経営トップである校長先生の</p>			

情熱に期待したい。

○子ども達の学力向上に成果が見えたことは成果である。

(2) 少数意見

特になし

5 評価及び課題

(1) 評価

○学力向上の取り組みも10年を経過し、その評価をふまえて専門部等の組織の編成や方向性を定めた取り組みなどで一定の成果を上げている。さらに、学力向上を目指し、ニーズに応じた各種セミナーを開催するなど、教師力・指導力の向上にも成果を上げている。今後は、子ども達の弱点を克服すべく、具体的な目標を設定した取り組みを進めてほしい。また、意欲的に授業改善に取り組む教師が育つことを期待するとともに、家庭学習への保護者の理解と協力を得るため啓発活動も継続して取り組んでほしい。

(2) 課題

○学力向上の取り組みが成果を上げつつあるが、改善すべき点を分析し、更なる学力向上（知識・技能に加えて思考力・判断力・表現力等）につなげてほしい。

○子供たち一人ひとりの特性にあった指導するためには、教師の指導力向上が不可欠である。

○家庭学習を阻害するメディア、スマホ、ゲームに子ども達が誘惑されないようするための指導や、SNSなどの投稿による“いじめ”が発生しないようなメディア教育を含め、家庭教育の課題を克服するためにも、保育所・小学校・中学校の保護者と学校、地域が連携した取り組みをすることが必要であり、特に保護者への啓発が重要である。

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	総務学校教育課	No.	2
予算科目	教育管理費	教育指導費	
事業名	学校図書充実事業		
決算（見込）額	18,366千円		
1 事業の内容			
<p>学校図書館を児童生徒の豊かな心をはぐくみ自由な読書活動や読書指導の場である「読書センター」として、また情報の収集・選択・活用能力を育成するための「学習・情報センター」として充実させるため、学校司書等を配置し、児童生徒の読書活動の推進及び豊かな人間性や情報活用能力を育む。</p>			
2 成果及び状況			
学校司書雇用費（5名（校）＋巡回司書1名）	13,972千円		
● 図書館支援員雇用費（6校）	1,044千円		
● 学校司書研修費	123千円		
● 図書購入費	2,692千円		
● その他事務経費	535千円		
3 前年の評価に対する取組及び達成度			
<p>巡回司書を含む学校司書の配置と、図書館支援員の協力により、学校図書館を児童生徒にとって自由な読書活動の場としてだけでなく、学校・教員と連携した、教育活動の場として積極的に活用できた。</p> <p>年次的にただ図書を購入するのではなく、データの古い図書・修繕不可能な図書の廃棄等を積極的に行うことで、「学習・情報センター」としての学校図書館の機能がより充実した。</p> <p>学校司書の配置拡充など、更なる図書館機能の充実を図っていきたい。</p>			
4 事務評価委員会の評価			
<p>(1) 評価の概要</p> <p>○子どもにとって魅力ある学校図書館にするためには、学校司書の力量にかかる面が大きい。教育委員会として司書研修の充実や司書同士の情報交換の場を多く設定してほしい。</p> <p>○学校図書館が活用されたことを示す「指標」があれば、事業成果の説明が明確となり、事業の継続性が担保される。「指標」実現に向けて取り組むことで学校司書の活動が整理され、より効果的な運営が期待できるのではないか。学校司書の話し合いで自分たちの活動目標となる「指標」作成がなされれば、より効果があるのではないか。</p> <p>○学校司書の配置と図書館支援員の働きで機能が充実したことは成果である。</p> <p>○司書の配置に加え、今後は司書教諭養成の必要性を感じます。激変する社会に対応できる為にも、学校図書館を活用した教育が重要になるのではないかと思います。</p> <p>○保育所・認定こども園では、「しまね子育て絵本」を活用し、未就学児が本に触れる機会を充実させている。学校の集団生活に於いて、ひとりで、ゆったり（癒しの空間）本と触れ合う時間を確保する事も大切と考えます。</p> <p>○地域との連携による図書館ボランティア（退職者、高齢者）を活用できないか。</p> <p>(2) 少数意見 特になし</p>			
5 評価及び課題			
<p>(1) 評価</p> <p>○学校司書の配置、活動により学校図書館が年々充実し、児童生徒の利用だけでなく、学校教育課程の展開にも寄与している。更なる充実と図書館活用の推進を期待する。</p>			

(2) 課題

- 学校図書館がさらに、子どもたちの学習を支え、学力向上に役立つためには図書館司書、学校司書、司書教諭、支援員の研修の機会を増やしたり、情報交換の場を設定したりしてほしい。学校経営のトップである校長の理解も不可欠。
- 子供が本を生活の中に取り込むことは、乳幼児期からの本に触れ合うことと密接なつながりがある。このようなことから、保育所(園)との連携を図ることも検討が必要ではないか。ひいては、低学年への読書活動を積極的に進めることが、中・高学年へ繋がると思われる。
- すべての小学校への学校司書の配置が望ましい。

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	総務学校教育課	No.	3
予算科目	教育管理費	教育指導費	
事業名	英語指導事業		
決算（見込）額	11,142千円		
1 事業の内容			
英語教育の充実と国際理解の推進を図るため、外国語指導助手（ALT）を各小・中学校へ派遣し、外国語活動や英語の授業の補助等を行います。また、地域における国際交流活動への協力を行う。			
2 成果及び状況			
ALT雇用費	2名	8,070千円	
ALT小中学校派遣経費（移動交通費）		2,187千円	
事務費		885千円	
3 前年の評価に対する取組及び達成度			
<p>中学生の「話す・聞く」の英語によるコミュニケーション能力の向上が図られた。</p> <p>小学校5・6年生の外国語活動では、教員のほとんどが英語の教員免許状を持っていないため、ALTの補助により授業がスムーズに進められた。</p> <p>学校以外の場においてもALTは、英会話教室の講師や隠岐ジオパーク英語キャンプのスタッフを務めるなどたり、地域のイベント等でも積極的に活動している。</p> <p>平成32年度からの小学校での英語教科化に向け、来年度より移行措置が行われるため、ALTを増員図っていく。</p>			
4 事務評価委員会の評価			
<p>（1）評価の概要</p> <p>○英語教科化に向けてALTの増員は必須である。予算化に努力してほしい。</p> <p>○H32年度からの小学5・6年生の英語教科化に向けてより努力が必要ではないか</p> <p>○中学校および高等学校においてアルファベット自体の読み、書きに難しさがある生徒が少なからず存在している。会話を中心としている段階では、読み書きの確認は主目的ではないかもしれないが、中学校での学習につながるためにも、識字、書字に課題があることを押さえた取組が望まれる。ALTで、その確認が可能であればよいが、そうでない場合担任などの関与が必要ではないか。</p> <p>○小・中学校連携の下、中学校英語担当教員の小学校への兼務派遣はできないか。</p> <p>○ALTの存在により言語と共に異文化にも触れること事ができ、離島という環境の中でその存在は大きい。しかし、学校外活動（イベントなど）は、ALTの負担増につながりかねない。本来の目的である英語教育に影響が及ぼさない範囲になるよう指導してほしい。</p> <p>○地域の人材を英語指導にも活用できないか。</p> <p>○今後とも前向きに取り組んでほしい。</p> <p>（2）少数意見 特になし</p>			
5 評価及び課題			
<p>（1）評価</p> <p>○本町において児童生徒が接する外国人の多くはALTがほとんどであるので、ALTが一人でも多いことが望ましい。また、ALTは、英語教育だけを担っているのではなく、異文化にも触れること機会を子ども達に提供しており、離島という環境の中でその存在は大きい。</p> <p>○学力調査でも英語が弱い結果が出ている。小学校英語教科化に向けて重要な事業である。更なるALTの増員や教員研修、できれば英語教員の加配が必要である。</p>			

(2) 課題

- 英語教育は国際化に向けてますます重要になってくる。小学校でも英語科が必須となってくるほか、大学入試でもその比重は大きくなってくる。離島という環境にいる子ども達にとって、ALTの更なる増員やAI、デジタル教材の導入など、将来を見据えた計画的な対応が必要である。

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	総務学校教育課	No.	4
予算科目	教育管理費	教育指導費	
事業名	特別支援教育事業		
決算（見込）額	13,198千円		
1 事業の内容			
<p>小・中学校において、特別な教育的支援を要する児童生徒が在籍する学級に支援員を配置し、具体的な支援策を明らかにして、児童生徒や教員を支援する。</p> <p>町内の教育・保健・福祉の関係部局・関係機関の担当で組織された相談支援チームを設置し、乳幼児期から学校卒業後までの発達障がいを含む全ての障がいのある幼児児童生徒の特別支援教育を総合的に推進する。</p> <p>隠岐郡内の医療・教育・保健・福祉の関係部局・関係機関の担当で組織された教育支援委員会で、障がい等のある幼児児童生徒の教育相談、適切な就学判定を行う。</p>			
2 成果及び状況			
特別な支援のための支援員配置経費	9,298千円		
特別支援教育コーディネーター配置経費	3,264千円		
隠岐の島町相談支援チーム活動経費	64千円		
隠岐教育支援委員会活動経費	173千円		
特別支援教育各種補助金	179千円		
相談支援事業	186千円		
事務費	34千円		
3 前年の評価に対する取組及び達成度			
<p>学級担任や特別支援教育コーディネーターと支援員や保護者が連携を図り、支援方針を共通理解し、取り組んだ結果、支援を要する児童生徒の安定が図られ、苦手な教科についても意欲的に取り組む姿勢が見られるようになった。</p> <p>相談支援チームの相談活動等により、的確な実態把握や適切な支援につなげることができた。また、特別支援教育の理解と校内支援体制の充実が図られ、児童生徒への支援がより効率的・効果的に行われた。さらには特別支援に関する研修会を企画、実施し特別支援教育の充実を図った。</p> <p>本年度より特別支援教育コーディネーターを配置し、保健師や隠岐養護学校と連携しながら保育所訪問等の活動を行っている。これにより、子どもの困っている状況に早期に気付くだけでなく、子どもやその保護者への適切な支援や、子どもを預かる保育士への指導助言を行うことができた。</p>			
4 事務評価委員会の評価			
(1) 評価の概要			
○特別支援教育コーディネーターの配置により、保育所と小学校、保健課と町教委の情報共有が大きく進み、早期療育体制の充実に効果があった。また、この事によって普通学級の充実にもつながると思われる。			
○人事異動が頻繁な隠岐地区にあっては、相談支援チームが、いつ、何をするかを明確にしておくことが大切である。コーディネーターに支援チームの効率的な運営の要となっていたきたい。			
○学校内における教職員への発達障がいの理解を図る研修をしっかりとやってほしい。			
○関係機関が連携しながら総合的に取り組むことは大切と考えます。			
○多様な個性をもつ児童生徒の学級担任の負担を軽減する為にも支援員等の配置は重要だと思います。			
(2) 少数意見			
特になし			
5 評価及び課題			
(1) 評価			
○特別支援教育コーディネーターを配置し、保育所、学校と行政が連携をし、個を大切にされた支援がより適切に行われるようになった。			

(2) 課題

○個に応じた適切な就学判定を行うために、有資格者を育成する必要がある。また、子どものいろいろな障がいに応じた指導ができる教員を増やすための研修が必要ではないか。

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	総務学校教育課	No.	5
予算科目	教育管理費	教育指導費	
事業名	高校魅力化事業		
決算（見込）額	16,366千円		
1 事業の内容			
<p>コーディネーターを配置し、県立高校の魅力化事業を推進する。</p> <p>県外生徒確保のために重要な魅力の一つである寄宿舎の寮費助成、マッキロップ校（豪州）との交流事業による英語への興味拡大と語学力アップ及び異文化交流による国際人の育成、オープンスクール参加費の補助、教員数の減による生徒の学力向上事業、部活動遠征費、研修旅行の助成を行う。</p>			
2 成果及び状況			
高校魅力化コーディネーター配置経費	8,372千円		
県立高等学校魅力化事業補助金			
海外学生招致事業（マッキロップ校来日）	988千円		
学習支援補助	1,000千円		
オープンスクール参加宿泊費補助	601千円		
高校寮費助成事業	4,095千円		
部活動遠征費補助	710千円		
研修旅行助成事業	600千円		
3 前年の評価に対する取組及び達成度			
<p>高校寄宿舎の寮費助成、オープンスクール参加費の補助を実施し、県外生徒の確保に努め、隠岐高校4名、水産高校16名の県外生入学に寄与した。</p> <p>マッキロップ校（豪州）との交流事業では本町に来島し、ホストファミリーとの交流などを行った。これにより、英語への興味拡大と語学力アップ、異文化交流による国際人の育成を図ることができた。</p> <p>教員数が減となっているため、生徒の学力向上のための駿台サテネット事業等の助成を行い、受験勉強等の学習に効率よく取り組めた。</p> <p>また、部活動遠征に係る費用の一部について助成による保護者の負担軽減の他、研修旅行では大学でジオパーク学習の発表するなど高校の魅力アップを図った。</p>			
4 事務評価委員会の評価			
(1) 評価の概要			
○県外生徒の入学という成果につながっていることは評価できる。ただ、県外生徒数以上の島外への進学生徒数があるので、地元高校の魅力をについてしっかり情報発信し、地元進学を促すよう、中学校、県立高校と教育委員会が連携して取り組む必要があるのではないかな。			
○寮費助成は、隠岐郡内の子（島前地区等）については助成しているか。助成していなければ不公平感が出てくるのではないかな。			
○高校の魅力化と地域活性化の為に、町外生徒の確保は重要と思いますが、中学校選択を町外に決定する家族も増加傾向にあるようです。隠岐の島町の学校（小・中・高）が連携を持ちながら共通課題に取り組む事が大切と考えます。			
○コーディネーターが生徒募集を島外向けに情報発信することは当然だが、島内の生徒にもっと地元高校の魅力を伝える取り組みも必要ではないかな。			
○島の最高学府である高等学校の存在の意義は大きい。教育機関だけでなく町として強く関わっていくべきではないかな。			
○コーディネーター配置の成果が見えて良かった。			
(2) 少数意見			
特になし			

5 評価及び課題

(1) 評価

- 各種イベント時に、隠岐高校生の活動が見受けられた。手作りのものや、発案したものの発表等、高校魅力化事業が成果を出してきているように感じる。
- オーストラリア交流事業は離島の子どもたちにとって、異文化を知り、国際感覚を育成するとともに、隠岐の高校の魅力化につながっている。報告会を行うなど、事業を生かして生徒たちの関心を広めることも大切。
- 事業において、事業費がもりこまれていることは評価できる。

(2) 課題

- 少子高齢化に伴い、町内の県立高校は定員に満たない状況が続いている。高校の存続は島の活性化にとっても重要であるため、更に高校魅力化を推進し、生徒確保に向けたアピールをする必要があると感じる。また、高校魅力化を推進するうえで、高校コーディネーターのスキルアップのために研修機会を増やすべきではないか。
- 評価委員会も指摘しているが、島外への進学生徒が多いので、対応が必要である。学校と地域が協働体制を構築するには「魅力化推進協議会」の果たすべき役割が大きいと思う。

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	総務学校教育課	No.	6
予算科目	小学校費	教育振興費	
事業名	教育振興事業		
決算（見込）額	21,898千円		
1 事業の内容			
町立小学校7校の教育振興のために必要な教材等の整備費や、校内外の教育活動費、就学援助費・特別支援教育就学奨励に係る事業である。			
2 成果及び状況			
教材等整備費	2,323千円		
校内教育活動費	6,608千円		
修学旅行補助金	2,728千円		
いじめ対応支援事業	273千円		
就学援助費・特別支援教育就学奨励費	9,454千円		
ふるさと教育推進事業	409千円		
その他事務費	103千円		
3 前年の評価に対する取組及び達成度			
小学校教育に必要な教材等の整備・補助をした結果、各校の実態・要望に応じた取組を行うことができた。また、修学旅行費補助金の拡充をすることで保護者負担の軽減が図られた。			
4 事務評価委員会の評価			
(1) 評価の概要			
○修学旅行費の補助は、保護者の負担軽減につながっている。			
○児童の安定的な学習を実現するために、就学援助費は重要である。ただ、申請手続きなどを苦手としている保護者も多く存在しており、各校担当者の丁寧な説明、働きかけにより「必要な人にきちんと届く制度」を実現していただきたい。			
○いじめ対応支援事業について、児童のアンケート調査の結果を踏まえて各学校の指導の充実に活かしてほしい。また、各学校においては、いじめが深刻な人権侵害であることの認識をしっかりと自覚して取り組んでほしい。			
○いじめ問題に関しては、いち早くキャッチし、対応できるように繰り返しの研修等が必要と思われます。			
(2) 少数意見			
特になし			
5 評価及び課題			
(1) 評価			
○いじめ問題を把握するには、“ない”ではなく“ある”ことを前提に各学校で常にアンテナを張り、即対応ができるよう、学校と教育委員会が密接な連携をとってほしい。さらに、虐待を見逃さないよう子ども一人ひとりの日常の観察に努めてほしい。			
○すべての子ども達が、平等に学び活動する体制づくりを確保しており、充実した学校教材が補充できるよう予算確保の継続が重要である。			
(2) 課題			
○本町の学校には“いじめはない”と胸を張れるようになりたいものである。そのためにも、子ども一人ひとりの学校生活や家庭環境の把握、いつでも相談できる体制づくり、人権の教えなどが重要である。教職員も多忙な中ではあるが、一丸となって取り組んでほしい。また、地域においても子どもは「地域の宝」であることを念頭に置き、家庭だけでなく地域社会が一緒になって見守る体制が必要である。			

○修学旅行は学校ごとに目的を持って取り組んでいるであろうが、複数の学校が日程調整して合同の修学旅行を計画すれば、団体割引等で経費負担が軽減されるのではないか。

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	総務学校教育課	No.	7
予算科目	小学校費	学校施設費	
事業名	有木小学校大規模改修事業	8,240千円	
	磯小学校グラウンド整備事業	33,779千円	
	西郷小学校グラウンド整備事業総	51,319千円	(明許繰越)
決算(見込)額	上記		
1 事業の内容			
<p>老朽化の著しい有木小学校の機能回復と安全確保のために大規模改修事業を行う。事業実施のための詳細設計の業務委託である。</p> <p>磯小学校グラウンド裏山からの雨水等が流入しグラウンド表土が流出するなど、グラウンドとして利用しにくい環境にあるため、これらを改善・整備し、児童の運動・体力向上が図れる環境づくりを目的とする。</p> <p>西郷小学校グラウンド施設が経年使用により老朽化している。グラウンド表層やバックネットなどを整備し、安全で快適な教育環境の機能を回復する。</p>			
2 成果及び状況			
有木小学校整備測量設計業務	8,240千円		
磯小学校グラウンド整備測量設計	1,944千円		
磯小学校グラウンド整備工事	31,835千円		
クレー舗装 4,540㎡	側溝 50.0m	縁石 272.0m	グラウンドマーク 1式
西郷小学校グラウンド整備測量設計	1,890千円		
西郷小学校グラウンドの改修工事	49,429千円		
クレー舗装 8,120㎡	バックネット設置 14.0m	グラウンドマーク	1式
3 前年の評価に対する取組及び達成度			
<p>有木小学校の大規模改修事業による機能回改善と安全を確保できる。</p> <p>磯小学校グラウンド舗装や関連構造物(縁石や水路等)を整備することで、教育環境の充実と安全な施設の確保につながった。</p> <p>西郷小学校グラウンド舗装や関連構造物(バックネット等)を整備することで、教育環境の充実と安全な施設の確保につながった。</p>			
4 事務評価委員会の評価			
(1) 評価の概要			
○施設整備により、より安全な子ども達の教育環境の確保につながっている。			
○子どもの事故防止のために、各学校の遊具や体育施設(サッカーゴール等)の点検整備を進めてほしい。			
○安全確保の為整備事業は必要だが、今後の児童数の変動を把握し、慎重に進める必要があったように思われる。			
(2) 少数意見			
特になし			
5 評価及び課題			
(1) 評価			
○学校施設は安全な場所であるべき。施設の修繕や整備は、安全を第一に事故防止のためにも、計画的かつ早急に対応をお願いしたい。			
(2) 課題			
特になし			

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	総務学校教育課	No.	8
予算科目	中学校費	教育振興費	
事業名	教育振興事業		
決算（見込）額	41,362千円		
1 事業の内容			
町立中学校4校の教育振興のために必要な教材の整備費や校内外の教育活動費、部活動遠征助成や就学援助費・特別支援教育就学奨励に係る事業である。			
2 成果及び状況			
教材等整備費	7,736千円		
校内教育活動費	7,128千円		
修学旅行補助金	4,870千円		
いじめ対応支援事業	215千円		
就学援助費・特別支援教育就学奨励費	9,692千円		
ふるさと教育推進事業	240千円		
その他事務費	316千円		
3 前年の評価に対する取組及び達成度			
中学校教育に必要な教材等の整備・補助をした結果、各校の実態・要望に応じた取組を行うことができた。また、修学旅行費補助金及び各種大会参加補助金を拡充することで保護者負担の軽減が図られた。			
4 事務評価委員会の評価			
(1) 評価の概要			
○修学旅行費の補助は、保護者の負担軽減につながっている。			
○生徒の安定的な学習を実現するために、就学援助費は重要である。ただ、申請手続きなどを苦手としている保護者も多く存在しており、各校担当者の丁寧な説明、働きかけにより「必要な人にきちんと届く制度」を実現していただきたい。			
○いじめ対応支援事業について、児童のアンケート調査の結果を踏まえて各学校の指導の充実に活かしてほしい。また、各学校においては、いじめが深刻な人権侵害であることの認識をしっかりと自覚して取り組んでほしい。			
○教材の整備、修学旅行費補助率アップや各種大会参加費の補助率アップは良かった。			
○今度とも前向きに取り組んでほしい。			
(2) 少数意見			
特になし			
5 評価及び課題			
(1) 評価			
○いじめ問題を把握するには、“ない”ではなく“ある”ことを前提に各学校で常にアンテナを張り、即対応ができるよう、学校と教育委員会が密接な連携をとってほしい。さらに、虐待を見逃さないよう子ども一人ひとりの日常の観察に努めてほしい。			
○すべての子ども達が、平等に学び活動する体制づくりを確保しており、充実した学校教材が補充できるよう予算確保の継続が重要である。			
(2) 課題			
○本町の学校には“いじめはない”と胸を張れるようになりたいものである。そのためにも、子ども一人ひとりの学校生活や家庭環境の把握、いつでも相談できる体制づくり、人権の教えなどが重要である。教職員も多忙な中ではあるが、一丸となって取り組んでほしい。また、地域においても子どもは「地域の宝」であることを念頭に置き、家庭だけでなく地域社会が一緒になって見守る体制が必要である。			

○修学旅行は学校ごとに目的を持って取り組んでいるであろうが、複数の学校が日程調整して合同の修学旅行を計画すれば、団体割引等で経費負担が軽減されるのではないか。

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	生涯学習課	No.	9
予算科目	社会教育費	社会教育総務費	
事業名	青少年教育事業		
決算（見込）額	7,126千円		
1 事業の内容			
<p>「離島」というハンディキャップの解消を図り、子供たちの、より活発な活動を促進していくことを目的とし、島外遠征に係る渡航費用を助成する。学校、家庭及び地域が連携協力し、地域全体で子どもたちの豊かで健やかな心身を育む体制づくりを目指す。</p>			
2 成果及び状況			
<p>がんばれ島のキッズ島外遠征費補助事業 2,647千円 対象者数：1,296人（平成28年度 1,146人） 結集！しまねの子育て協働プロジェクト事業 3,544千円 放課後子ども教室（安全管理員の配置）、学校支援事業、家庭支援事業（親学講座の実施） ふるさと教育推進事業 930千円 事務費 5千円</p>			
3 前年の評価に対する取組及び達成度			
<p>がんばれ島のキッズ島外遠征費補助事業は、申請者数は増となったが、航路・航空路旅客運賃助成事業適用後の額を助成するため補助金総額は減となった。 ふるさと教育推進事業は、年々成果発表の内容が向上しています。子ども議会においての中学生の取り組みが評価されている。 大満寺キャンプ場は本堂の崩壊、風呂、トイレの劣化が進み危険である上、避難所の確保が困難になっていることもあり、平成29年度は開設していない。</p>			
4 事務評価委員会の評価			
<p>（1）評価の概要 ○小中学生のスポーツ・文化活動の振興に遠征費補助事業は大きく寄与していると考え。 ○事業がスポーツ関係に偏りすぎているように見受けられる。もう少し文化・芸術活動にも力を入れるべきである。 ○事業効果の評価は難しいが、事業の利用が町内の各団体において均衡がとれていることを説明することは必要だと考える。 ○ふるさと教育として“こども議会”で町長と語り合う事に大きな成果を感じる。 ○今度とも前向きに取り組んでほしい。 ○放課後子ども教室には地域格差があると考えられるので検討すべきである。 ○大満寺教育キャンプは本堂が使用できなくても実施できる対策を考えるべきである。また、一般登山者の利用もあるので、何らかの整備が必要ではないか。</p> <p>（2）少数意見 特になし</p>			
5 評価及び課題			
<p>（1）評価 ○子ども議会はふるさとに直接関わり、身近な行政の仕組みを知り、自分の考えを発表する場として良い機会である。参加した子ども達は、臆することなく自分の意見を述べ、その内容も充実してきている。年々成果の積み上げを感じる。 ○スポーツ振興に偏ることなく、文化芸術振興にも取り組んでほしい。離島だからこそ本物に触れる機会を作り、子ども達の可能性を広がるよう幅広く取り組んでほしい。</p>			

(2) 課題

- 放課後子ども教室の設置など、子育てプロジェクトの充実が感じられるが、多くの子ども達が集まる中、いじめやいたずらなどを発見した場合、その対応をするべく保護者や学校との連携が必要である。
- 家庭支援事業などで、学校と連携を図りながら家庭教育の重要性・必要性を説くことが可能ではないか
- 日常と異なる環境を体験できる大満寺キャンプが開設されないのは残念であるが、デイキャンプや遠足、一般登山者が利用できるような対策を検討してはどうか。

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	中央公民館	No.	10
予算科目	社会教育費	公民館費	
事業名	公民館管理運営事務		
決算（見込）額	65,719千円		
1 事業の内容			
<p>公民館が社会教育機関として、多様な学習ニーズに応えながら、広く住民に学習やコミュニティ活動の場を提供し、親しまれる公民館として運営の充実、向上を図り「郷土を愛する人材育成」を目指す。</p>			
2 成果及び状況			
公民館職員人件費（6名分）	52,318千円		
中央公民館管理運営費	3,596千円		
事務補助員1名、公民館運営審議会開催、会議・講座等会場使用料、公用車等維持管理及び事務費			
布施公民館管理運営費決算額	3,628千円		
事務補助員1名、公用車等維持管理及び事務費他			
五箇公民館管理運営費決算額	285千円		
図書購入費、傷害保険料			
都万公民館管理運営費決算額	5,892千円		
・事務補助員2名、公用車等維持管理及び事務費			
3 前年の評価に対する取組及び達成度			
<p>公民館の運営充実のための事務補助員の雇用費や、施設の管理費に加え、中央公民館では様々な活動に利用できるよう、平成24年度から、イベント用簡易テント・机・いす等の備品を整備しており、各種団体に対し、貸すことができた。</p>			
4 事務評価委員会の評価			
(1) 評価の概要			
○中央公民館は、各同好会などの集まりの場となって多くの町民が利用しており、良いことと思う。			
○公民館だよりにより、町内での活動がよくわかるが、極力 報告ではなく予告・募集に当ててもらえると参加者増につながるのではないでか。			
○公民館職員及び指導員の研修を充実すべきである。			
○公民館は社会教育の最先端ですのでますますの充実を期待したい。			
○今度とも前向きに取り組んでほしい。			
(2) 少数意見			
特になし			
5 評価及び課題			
(1) 評価			
○公民館は社会教育の中核となっている施設であり、毎月の「公民館ニュース」は町民個人の生涯学習への情報提供に役立っている。			
(2) 課題			
特になし			

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	中央公民館	No.	11
予算科目	社会教育費	公民館費	
事業名	公民館活動振興事業(1/4)-中央公民館-		
決算(見込)額	4,111千円		
1 事業の内容			
<p>公民館が社会教育機関として、多様な学習ニーズに応えながら、広く住民の学習やコミュニティ活動の場を提供し、親しまれる公民館として運営の充実、向上を図り「郷土を愛する人材育成」を目指す。</p>			
2 成果及び状況			
<p>公民館分館活動費(西郷41分館) 3,035千円 分館活動費支援、分館連絡協議会の開催、講座講師の派遣 まちづくり活動推進費決算額 810千円 まちづくり運動協議会活動費支援 中央公民館活動費決算額 266千円 各方面の講座や事業の実施、あけぼの教室の事業支援、放課後子ども教室などの実施</p>			
3 前年の評価に対する取組及び達成度			
<p>分館連絡会議を開催し、分館活動の推進と活動の支援を行った。住民の方々のニーズに合わせ、様々な講座や事業を実施し、多くの方が気軽に公民館に立ち寄れるよう取り組むことができた。まちづくり運動協議会を通して、住民参加による活動の推進も行った。高齢者学級「あけぼの教室」・世代間交流事業など幅広く活動ができた。</p>			
4 事務評価委員会の評価			
<p>(1) 評価の概要 ○まちづくり運動協議会が町の活性化に大いに貢献している。公民館とタイアップして、更なる充実を望む。 ○分館活動費により、地域の活動が広がっている。 ○今度とも前向きに取り組んでほしい。</p> <p>(2) 少数意見 特になし</p>			
5 評価及び課題			
<p>(1) 評価 ○地区の体育・文化行事に分館補助金が役立っていると思うので継続すべきである。</p> <p>(2) 課題 ○公民館活動の中で、最小単位である分館活動は地域住民に身近で活動しやすい単位である。特に分館の多い西郷地区では、住民のニーズを把握し、一歩を踏み出す支援や困りごとの相談相手になってほしい。 ○分館補助金がそれぞれの地区にどのような事業に活かされているか報告することも必要ではないか。</p>			

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	布施公民館	No.	12
予算科目	社会教育費	公民館費	
事業名	公民館活動振興事業（2/4）-布施公民館-		
決算（見込）額	1,041千円		
1 事業の内容	<p>公民館が社会教育機関として、多様な学習ニーズに応えながら、広く住民の学習やコミュニティー活動の場を提供し、親しまれる公民館として運営の充実、向上を図り「郷土を愛する人材育成」を目指す。</p>		
2 成果及び状況	<p>公民館分館活動費（布施3分館・中村9分館） 791千円 分館活動支援、分館長会議の開催 まちづくり活動推進費決算額 76千円 浄土ヶ浦祭や花いっぱい運動助成、布施少年育成連絡協議会（布施塾）活動助成 布施地区館活動費決算額 174千円 各種講座、文化祭及び立志式、図書館の図書充実</p>		
3 前年の評価に対する取組及び達成度	<p>各分館活動では、分館長会議を開催して活動内容や地域課題について話し合い、活動に活かすことができた。各種講座の開催については、地域の要望に配慮し開催することができ、地域との連携が図れた。文化祭は浄土ヶ浦祭と同時開催することで、地区外の皆様も多く見られ異世代の交流が図られた。また、各種団体の作品を展示することで地域の方々の交流も図ることができた。</p>		
4 事務評価委員会の評価	<p>（1）評価の概要 ○年々活動が広がり、布施・中村地区の地域性が活かされ、地域づくり、活性化に貢献している。 ○今度とも前向きに取り組んでほしい。</p> <p>（2）少数意見 特になし</p>		
5 評価及び課題	<p>（1）評価 ○公民館職員の作品展示など、画期的な取り組みも見られ、公民館が地域の軸となっていると感じられる。 ○各地区の公民館では地域性を活かした活動がなされており、地域の活性化に役立っている。</p> <p>（2）課題 特になし</p>		

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	五箇公民館	No.	13
予算科目	社会教育費	公民館費	
事業名	公民館活動振興事業(3/4)-五箇公民館-		
決算(見込)額	1,453千円		
1 事業の内容			
<p>公民館が社会教育機関として、多様な学習ニーズに応えながら、広く住民の学習やコミュニティ活動の場を提供し、親しまれる公民館として運営の充実、向上を図り「郷土を愛する人材育成」を目指す。</p>			
2 成果及び状況			
<p>公民館分館活動費(ジオパーク学習会) 842千円 分館活動支援、分館長会議の開催、分館連絡協議会主催のジオパーク学習会 まちづくり活動推進費(冬期体力づくり教室) 330千円 第51回冬期体力づくり教室(寒稽古) 幸齢者ふるさと学園活動費決算額 130千円 高齢者講座(幸齢者ふるさと学園)実施 五箇公民館活動費 90千円 放課後子ども教室などの実施、各種体育大会の開催支援、文化祭(どんと祭り文化部門)開催</p>			
3 前年の評価に対する取組及び達成度			
<p>分館活動を促進するために、分館長会議を開催し、支援を行った。高齢者事業は、高齢者自身が計画した事業を実施した。文化祭を開催し、作品や活動の状況などをホールに展示した。また、図書室は町立図書館と連携し、五箇診療所及び久見診療所にも配本して貸出しなどの利便を図った。</p>			
4 事務評価委員会の評価			
<p>(1) 評価の概要 ○生涯学習センターとしての機能を十分発揮しており、五箇地区のみならず広く町民の参加による様々な活動を実施している。 ○五箇地区の活動には意欲が見られる。 ○今度とも前向きに取り組んでほしい。</p> <p>(2) 少数意見 特になし</p>			
5 評価及び課題			
<p>(1) 評価 ○各地区の公民館では地域性を活かした活動がなされており、地域の活性化に役立っている。</p> <p>(2) 課題 ○文化祭の展示が年々少なくなっているため、学習センターを利用した講座を開催し、その作品展示をするなど新しい取り組みを検討しても良いのではないか。</p>			

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	都万公民館	No.	14
予算科目	社会教育費	公民館費	
事業名	公民館活動振興事業（4/4）－都万公民館－		
決算（見込）額	1,417千円		
1 事業の内容	<p>公民館が社会教育機関として、多様な学習ニーズに応えながら、広く住民の学習やコミュニティー活動の場を提供し、親しまれる公民館として運営の充実、向上を図り「郷土を愛する人材育成」を目指す。</p>		
2 成果及び状況	<p>公民館分館活動費（都万15分館） 1,135千円 分館活動支援、分館連絡協議会を開催 都万青少年育成事業 86千円 都万小・中学校の教育キャンプ 都万公民館活動費 196千円</p>		
3 前年の評価に対する取組及び達成度	<p>都万高齢者教室「都万笑福館」は元気な高齢者が集う良い機会の提供ができた。今後も継続する予定。 公民館講座はパソコン・スマホ講座、美文字講座、料理教室を行った。また、地域で活動するグループと連携し、体験教室を行う事ができた。今後の新たな取り組みを展開する予定。 分館活動ができるだけ円滑に実施できるよう支援した。公民館ふるさと教育推進事業で都万小中学校のキャンプを行った。学校との連携に努める。</p>		
4 事務評価委員会の評価	<p>（1）評価の概要 ○地区館活動の中で、都万小中学校のキャンプはふるさと教育として学社連携が良い。 ○都万笑福館の充実発展に期待しています。 ○今度とも前向きに取り組んでほしい。</p> <p>（2）少数意見 特になし</p>		
5 評価及び課題	<p>（1）評価 ○各地区の公民館では地域性を活かした活動がなされており、地域の活性化に役立っている。</p> <p>（2）課題 特になし</p>		

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	生涯学習課	No.	15
予算科目	社会教育費	社会教育施設費	
事業名	図書館管理運営事業		
決算（見込）額	91,544千円		
1 事業の内容			
身近な学習施設として、知る権利、学習権を保障し、人と人とのつながり・ゆとり・やすらぎの場を創造する。また、資料の充実、読書推進事業、利用サービスの拡充に取り組み、誰からも親しまれる図書館を目指す。			
2 成果及び状況			
隠岐の島町図書館管理運営事業 29,713千円 指定管理者(公財)隠岐の島町教育文化振興財団の管理運営 年間入館者数 57,846人(前年比▲989人) 貸出冊数 73,100冊(前年比▲4,768冊) 図書館施設整備事業 56,784千円 空調設備更新事業(木質ペレットボイラー導入) 図書館資料費決算額 4,594千円 書籍、雑誌、新聞、AV資料 図書館運営委員会開催 55千円			
3 前年の評価に対する取組及び達成度			
運營業務については、指定管理制度により(公財)隠岐の島町教育文化振興財団と協定を結び実施している。「財団・図書館・教委連絡会」を定期的実施しながら円滑な運営を図ることができた。 図書館施設整備事業について、老朽化で機器の更新が急務であったチラーボイラー式の空調設備を木質ペレットボイラー式に変更導入したことにより、利用者により良い学習の場を提供することができた。			
4 事務評価委員会の評価			
(1) 評価の概要 ○落ち着いた良い雰囲気図書館となっており、島の文化的イメージを高めている面も大きく、今後の充実に期待する。 ○新入荷の書籍の紹介や、特集コーナーの設置など本を手にとってもらおうとする姿勢を感じます。また、作品展示なども工夫されており、楽しみにしています。 ○図書館の活動を評価する「指標」を図書館内で明確してもらえるとよいのではないかと。 ○今度とも前向きに取り組んでほしい。 (2) 少数意見 ○図書館の開館時間が10時だが、もう少し早く開館できないか。			
5 評価及び課題			
(1) 評価 ○各コーナーでは新刊紹介や、タイムリーな展示がされ、特設コーナーでは地域資料の展示や住民の発表の場として活用され、充実している。 ○図書館振興計画を策定し、目標実現に向けての取り組みに期待する。 (2) 課題 ○一般的な図書館に留まらず、島民のコミュニティの場として、カフェや展示スペースなど多様な活用も検討してほしい。			

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	生涯学習課	No.	16
予算科目	社会教育費	文化財保護費	
事業名	文化財保存継承事業		
決算（見込）額	23,984千円		
1 事業の内容			
文化財関係の保存、調査、関係事務調整のほか、指定文化財等への補助金交付事務など、文化財の保護・活用を行う。			
2 成果及び状況			
隠岐の牛突き習俗調査事業 2,384千円 関連習俗調査の実施、調査委員会の開催、調査報告書を作成刊行 牛突き習俗保存対策事業 6,793千円 突き牛導入費補助金、突き牛処分費補助金、大会出場費補助金 無形民俗文化財補助金交付事業 2,738千円 町内の指定無形民俗文化財保持団体13団体 玉若酢命神社本殿屋根葺替事業補助 2,692千円 茅葺屋根の全面葺き替え、棟飾りの交換、向拝の檜皮葺き替え 国庫補助85%、県補助5%、町補助5%、所有者負担5% 古文書整理保存事業 162千円 町内古文書の現状把握及び保存処理、目録整備等 古文書研究会立ち上げ事業 600千円 古文書研究会への補助金交付事業（古文書講座、古文書講演会等の実施） 「隠岐の文化財」発刊事業決算額 799千円 文化財保護審議会開催 123千円			
3 前年の評価に対する取組及び達成度			
隠岐の牛突き習俗調査事業については、国の補助3年事業の最終年で昨年までの調査をまとめ、報告書を作成し刊行することができた。平成30年2月には調査の成果が認められ、県指定無形民俗文化財の「壇鏡神社八朔祭の牛突き習俗」から範囲を隠岐の島町全体の牛突き習俗に内容変更し「隠岐の牛突き習俗」が県指定無形民俗文化財として追加指定された。 「今津のとんど」について、文化財保護審議会にて審議され、町指定無形民俗文化財に新たに指定することが答申され、教育委員会で正式決定された。今後も保持者ともに保護に努める。			
4 事務評価委員会の評価			
(1) 評価の概要 ○文化財保護事業を「牛突き習俗」に焦点化し、成果を上げられていると思う。国の文化財指定が達成されるよう継続的な取組を期待する。 ○隠岐の牛突き習俗調査事業において、まとめができたことや町全部の牛突きが県指定になったことは大きな成果である。 ○文化財保存継承こそ教育委員会の委員会ではできない事業であるので今後も期待したい。 ○”今津のとんど”が町指定無形民俗文化財となって、島のふるさと教育に貢献できる。 ○古文書研究会の補助は、打ち切って良いのではないか。研究会は会員の自己負担で学ぶべきである。 ○今度とも前向きに取り組んでほしい。			
(2) 少数意見 特になし			

5 評価及び課題

(1) 評価

- 文化財保存継承事業は町にとって大切な事業であり、今後も教育委員会がしっかりと取り組んで行くべき。
- 牛突きや今津のとんどのように、地域の伝統文化を掘り起こし、住民に知らせるとともに、継承、保存に努めてほしい。

(2) 課題

特になし

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	生涯学習課	No.	17
予算科目	保健体育費	保健体育総務費	
事業名	保健体育活動推進事業		
決算（見込）額	13,492千円		
1 事業の内容			
<p>社会体育活動の推進、活性化を図るため、関係団体への補助金交付等の支援を行う。 平成29年度よりスポーツ推進計画の策定作業を始めた。</p>			
2 成果及び状況			
スポーツ推進委員活動費（報酬、研修旅費等）	209千円		
スポーツ推進計画策定作業経費（会議報酬等）	51千円		
障がい者スポーツ振興事業委託料	246千円		
各種補助金等	7,015千円		
隠岐の島町体育協会補助金 1,994千円	八角部屋隠岐合宿支援費 3,000千円		
スサノオマジック関連事業補助金 652千円	全国大会出場補助金 530千円		
隠岐郡体育協会290千円			
3 前年の評価に対する取組及び達成度			
<p>地域及び各種スポーツ団体の活動が活性化するよう、体育協会などへの支援を行っている。 近年では、技術力が向上し島根県代表として全国大会へ出場する団体、個人が増えており事業費の増となった。 昨年に引き続き、プロバスケットチームである「島根スサノオマジック」のプレシーズンマッチが本町で行われ、この観戦チケット代金を補助しプロスポーツの迫力を身近に感じ取ることができた。また、プロスポーツ選手と触れ合うことで、夢を持つことの大切さを直接学ぶ夢授業を開催した。</p>			
4 事務評価委員会の評価			
(1) 評価の概要			
○町民の生涯スポーツ人口を広めていく施策が必要であり、是非取り組んでほしい。			
○スポーツ活動は指導者によるところが大きいのと思われるので、指導者の養成に力を入れて欲しい。			
○プロの試合を観戦できる機会は、子ども達の学ぶ意欲へつながると思う。			
○八角部屋合宿経費の負担は大きいので今後検討してほしい。			
○今度とも前向きに取り組んでほしい。			
(2) 少数意見			
特になし			
5 評価及び課題			
(1) 評価			
○スサノオマジックのような全国的に活躍するチームを島民が観戦できることはすばらしい機会と思われる。			
(2) 課題			
○八角部屋合宿は、後援会などへその主体を移したり、補助金についても検討すべきである。			

別表

平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価表

担当課	学校給食センター	No.	18
予算科目	学校給食センター	学校給食費	
事業名	学校給食センター管理運営事業		
決算（見込）額	46,170千円		
1 事業の内容	<p>子供たちの発育を考え栄養教諭の献立により、おいしくて安心して安全な給食を決められた時間内に調理し提供している。現在、町立小中学校の児童生徒及び教職員の給食(約1200食)を提供している。</p>		
2 成果及び状況	<p>食器洗浄機更新工事 45,090千円 食器洗浄機更新設計監理委託 1,080千円</p>		
3 前年の評価に対する取組及び達成度	<p>決められた時間に大量の食器・食缶を洗浄するために必要な機械であり、衛生管理のためにも徹底した洗浄が必要である。今回の機械は既設の更新であり、よりきれいに合理的に洗浄できるようになっている。</p>		
4 事業評価委員会の評価	<p>(1) 評価の概要</p> <p>○異物混入事案もほとんどなく、安心安全な給食を実現されていると思う。また、ふるさと教育の一環として「ふるさと給食」地元食材による献立なども工夫が凝らされており、児童生徒が楽しみにするものとなっている。更なる充実を期待する。</p> <p>○異物混入を防ぐ上で洗浄機の購入は良いと思うが、洗浄の中で異物が混入したのか分からない。一般的には異物混入は、食材の裁断の中や配膳の中で混入するのではないかと。</p> <p>○安心安全の食事提供の為に機材導入は必要であったと思います。引き続き関係各課と連携しながら、アレルギー対策や感染症の情報把握を徹底し、危機管理意識の周知徹底を望みます。</p> <p>○給食調理担当者の研修を、教育委員会で計画すべきではないかと。</p> <p>○給食費の滞納者がいるのであれば、対応を検討すべきである。</p> <p>(2) 少数意見 特になし</p>		
5 評価及び課題	<p>(1) 評価</p> <p>○各学校のアレルギー対策も評価できるし、ふるさと給食について、地元食材を使ったメニューの提供は非常に良いことである。</p> <p>(2) 課題</p> <p>○月1回だけのふるさと給食ではなく、安い地元食材を使って回数を増やすことも検討してみてはどうか。</p> <p>○調理を民間に業務委託し、大半の調理員を地元で雇用しているが、高齢化や人手不足に陥らないように、運営面の状況把握も必要でないかと。</p>		